



# 新役員

- 会長 和田 将信 (東予)
- 副会長 三輪田 元亮 (南予)
- 全 十亀 興美 (東予)
- 理事 沼崎 守文 (東予)
- 全 三島 啓徳 (全)
- 全 阿部 睦雄 (全)
- 全 日野 諒二 (全)
- 全 星野 暢広 (中予)
- 全 長皆我部延昭 (全)
- 全 野口 寛則 (全)
- 全 正岡 重岩 (全)
- 全 田内 逸武 (全)
- 全 辻田 正明 (全)
- 全 大野 民之助 (南予)
- 全 渡辺 和敏 (全)
- 全 清家 貞宏 (全)
- 全 常磐井 守興 (全)
- 全 鎌田 正一郎 (全)
- 監事 鳥谷 長誠 (中予)
- 全 越智 静治 (東予)

問合せ  
入会申込  
会費納入  
は

☆年一金貳千円也

十亀興美宛連絡下さい。

## 全国協議会創立二十五周年記念大会に参加して

星野 暢 廣

神青協が誕生して二十五周年との事。人間ならば体力気力共に充実した青年であろう。

記念式典には神宮大官司、本庁事務総長を始め多くの御来賓を迎え、青年神職の大会らしく厳粛、しかも潑刺と行われた。戦後育った私ほどの様に満場の人々の生気漲った君が代を聞いた事がない。

設立当初活躍された方々は、現在第一線で御活躍の私達の顔見知りの方が多い。そうした諸先輩が来賓中にもかなりいらっしゃった。三重県神社庁長の宇治土公員幹先生は、青年は大いにやりなさい。やり過ぎがあっても尻ぬぐいは我々が引き受ける。と誠に我々にとって痛快なお話があった。そう暖く見守って下さっている。そう言う雰囲気が出来た。そう言う事がうかがい知れた。

プログラムの中に創立時の昭和二十四年の先輩諸兄の写真が掲載されていた。ダブダブのズボンに

折目がついていないのでよいにダブダブに見える。上着は身体に合わないシワだらけの背広と言った感じ。だがその服装に反してキラツとした顔顔、心の引締った美しい顔が並んでいる。設立当初活躍され会の組織を確固たるものにして来た諸先輩や、応援して下さい神社関係者の方々に、改めて感謝の意を表したい。そう言う気持ちになった。

日本のあしたを告げて、新しき……。二十五周年記念歌の発表が行われ、その作曲者黛敏郎氏の講演が行われた。黛氏は日本人の持つリズムに従って作曲したと説明される。そして戦後の音楽教育は、西洋音楽専門の教育であった

為に、日本人は持ち続けて来た固有のリズム感覚を失いかけていたと言われる。今日では黛氏らの御努力もあり学校でも日本のリズムを扱うようになって来つつあるそうである。作曲家黛敏郎氏は、深い神道の理解者でもある。この三月には、神音楽のふるさとと言う第一回かむながらの集いの催えられた。今後の御活躍を期待したいし、大いに応援したいものだ。

闘争によって反対勢力を打ち砕

く、それが勝利だと言う。それだけが方法ではないと思う。又それが本当の勝利なのだろうか。

現在の日本は、たたきつぶせば必ず別の方向に芽を出す。以前よりエスカレートして。そんな仕組の社会の様な気がする。私達は共産党や社会党のやって来た過激な戦術のあとを追いたくない。共産党は今日ソフトモード。国民全体を包み込む様な戦術に変化して来た。我々のお株を共産党にとられて、我々は共産党の過去の戦術に向う等と言う様な事にはしたくない。黛氏の様な方を各界に多く育ってもらおう事、そう言う方向にも力を入れたいものである。

二十五周年を迎えた全国協議会は、協議会だけにその組織の再考に迫られて来た。今年度も活動方針が打出されたが、前年度の方針は、各県活動報告書中にはそれほど反映されていない。方針自体に問題があるのか、中央と地方のコミュニケーションの問題か。地域的に分散する青年神職を結び付ける連絡網の整備、即ち相互の距離を無くする事が急務であり、今後の各県神青、全国協議会の発展を左右するものであると思う。

踊る阿呆に見る阿呆

清 家 貞 宏

公園のあちこちで練習している阿波踊りの鐘と太鼓の音が聞えて来て、徳島に着いた。四台の車に分乗して我等神青会員十二名が八月十五、十六日四国地区神青協、氏青協合同研修会に参加した。

四国各地の青年神職と氏子青年約百名が参加、「神社神道の興隆発展をめざして」の共通テーマで討議を行なったほか、神青は「現代世相と神社運営のあり方」に関



して経済、信仰の二グループに分れて討議、氏青は「氏子青年運動の拡大充実をめざして」を議題に熱のこもった討論となった。

日本人意識が低下している現在、若者の心理を把握し神社と氏子をつなぐ必要がある。神職自らが家庭教育する事により強い信念を持って祭の厳守を計らねばならない。各神社の実情により運営方法は異なるけれど、神職自身が教養をつけ氏子指導に当る事が神社運営にもつながるといふ結論になったが少々物足りなかつた。

なお、徳島県神社庁講師護王神社宮司古川護、大麻比古神社宮司谷口武治、神宮教学司幡掛正浩の三先生が講師として出席、それぞれ「心の御柱奉建の意義を畏みて」「田舎神主の管見による神社の諸問題」、「日本の活路と神道の役割」の演題のもとに神社の存続、未来について大変有意義、かつ教養の深さをうかがえる記念講演もあり、大いに感銘させられた。

懇親会では顔なじみになった他県の人達とも大いにしゃべり、飲んだ。ほろ酔い加減になった頃、徳島市内へ阿波おどり見物に出かけた。手に手に機敷の券を持ち、

市内各所にある機敷の一つに向つた。五十名位の者がぞろぞろと歩く姿はまるで修学旅行で引率された生徒の様だつた。それもたちの悪い生徒で酒の臭いをブンブンさせて大声で歌いながら歩くものだから、街を行く人も振り返って笑つていた。

せっかく来たのだから「踊る阿呆に見る阿呆同じ阿呆なら踊らにヤソソソ」と言う事だつたのに、いざ会場へ着くと踊ろうと言う言葉も空しく、徳島の助石君が一人提灯を持ち野口、正岡、自分の三人が残り順番待ちとなつた。

酔狂連や国土連の後に続いて出る事になったが、酒の酔いもさめて阿呆らしくなつたのもう止めて我等も機敷に入つて見物しようと言つたが、愛媛の心意気を見せる為にもやろうじゃないかと言う事で、とうとうやってしまった。三百メートル位の所を一回踊るだけだったが、我等の皮靴をはいた格好を見て見物人も大いに拍手してくれたので溜飲が下つた。

宿泊所に帰つても、愛媛の連中が一番遅くまでワイワイやつていたので他県の者も「今年の愛媛は気合が入っているので明日のソフ

トも面白いなあ」と言つていた。一夜あけて西の丸競技場で親睦ソフトボール大会が催された。昨夜の元気はどこへやら、寝不足の目をこすりながらメンバー表を作製、一回戦は苦戦しながらも後半に猛打が爆発し十四対七で徳島に勝つた。優勝戦は高知との対戦となり息づまつた投手戦の中で、愛媛は練習不足のせいか善戦空しく二対五で敗れ、二位となつた。敗れたとは言え、チームワーク、選球眼の良さはこれから各ブロック対抗の練習試合をして大いに育てて行こうと言うことになつた。

五時に無事全日程を終了。阿波踊りに賑う徳島をあとにした。食堂で休憩の時、「吉野川で禊をしよう」と相談がまどまり、夕暮れの吉野川にパンツ一枚で首まで入つた。鎌田道彦に習い大袈裟唱、ソフトの汗をも流した。意外と暖かい水だったが、全員すがすがしくなつた所で車に乗り松山方面へと楽しく帰つて来たのである。

来年は香川で四国ブロック大会が行われるが、今年同様多くの神青会員の参加により、若い力と情熱を発散させようではないか。

昭和四十八年度本会への寄附助成者名簿

自七月一日 至六月三十日

順不同敬称略

土居 重喜 菅 義彦 久保田照行 久保田 巖 榊田 三雄 辻田 盛雄 東雲神社 大宮 四郎 河田 誠章 矢野 正実	上浮穴郡 今治市 伊予郡 伊予郡 宇摩郡 上浮穴郡 松山市 温泉郡 大洲市 西条市	☆一金五万円也 大山祇神社 石鏡神社・石鏡本教 伊予豆比古神社	越智郡 西条市 松山市	☆一金五万円也	☆一金五万円也 今城 正森	東宇和郡	☆一金壹万円也 石川 梅蔵 石丸 金吾 石鏡神社豊友会 近藤 恒雄 愛媛県護国神社 矢野 峯義	西条市 松山市 西条市 宇摩郡 松山市 新居浜市	☆一金八千円也 葛城 光彦	西条市	☆一金七千円也 星野 満廣	伊予市	☆一金五千円也 越智 大介 矢野 文雄 堀 晴夫	宇和島市 宇摩郡 松山市
土居 重喜 菅 義彦 久保田照行 久保田 巖 榊田 三雄 辻田 盛雄 東雲神社 大宮 四郎 河田 誠章 矢野 正実	上浮穴郡 今治市 伊予郡 伊予郡 宇摩郡 上浮穴郡 松山市 温泉郡 大洲市 西条市	☆一金参千円也 玉井 忠臣 高橋 三郎 伊予稻荷神社 重松 守文	西条市 西条市 伊予市 松山市	☆一金参千円也 十亀 司老 大野民之助 尾上 一良 武智 圭邑 広川栄太郎 山下 幸伸 都子野政子 新藤 正一	西条市 宇和島市 松山市 松山市 今治市 松山市 松山市 新藤 正一	☆一金四千五百円也 宇和海支部	西条市	☆一金式千円也 十亀 司老 大野民之助 尾上 一良 武智 圭邑 広川栄太郎 山下 幸伸 都子野政子 新藤 正一	西条市 宇和島市 松山市 松山市 今治市 松山市 松山市 新藤 正一					

足跡

昭和四十八年九月九日 神社庁にて第二回総会開催、二三名出席  
 十月四・五・六日 伊勢神宮式年遷宮に会 勢神宮式年遷宮に会 長奉仕  
 十月上・中旬 県下秋祭祭典助務奉仕  
 十一月九日 神社庁にて全国神社総代会打合せ、三名出席  
 十一月十七・十八日 神道講演・祭式講習会、十名出席  
 十一月十九日 神社庁にて全国神社総代会準備会、八名出席  
 十一月二十一日 松山市民会館にて開催された「全国神社総代会」に二名出席、奉仕  
 十一月三十日 役員会  
 十二月一日 初詣ポスター五千枚を各神社本務室宛発送  
 昭和四十九年一月十九日 郵便貯金会館にて新年互礼会開催、二七名出席

三月二十七日 徳島にて四国プロック連絡会、二名出席  
 四月一日 会報創刊号発行  
 四月二十八日 役員会  
 五月七日 神社庁にて神道講演会打合せ、二名出席  
 六月二日 松山樺会館にて若木徳一講師を迎えて神道講演会開催、参加者八十名、会員二一名出席  
 六月十九・二十日 伊勢神宮会館にて開催された神道青年全国協議会総会及び創立二十五周年大会に参加、四名出席  
 六月二十三日 神社庁にて第三回総会開催、二三名出席  
 八月五日 大洲市にて南予プロック会開催、九名出席、来賓清家理事  
 八月十五・十六日 徳島市にて開催された四国地区神青協・氏青協合同研修会並ソフトボール大会に参加、十二名出席  
 九月十日 神社庁にて広報委員会開催、五名出席  
 十月一日 会報第二号発行

ひとくち通信

☆今年三月、前理事宮内幸博氏は鹿児島に転出され退会  
 ☆石清水八幡宮を退職し帰郷された鎌田正一郎氏(西宇和郡保内町崎)が四月に新入会、今回の総会に於て理事に選出さる。  
 ☆「うかい」を業しんだ南予プロック会員達、来年は「いもたき」の予定?  
 ☆阿波踊りに浮かれた会員、他県の女性に心をひかれたその熱はさめたか否か?

後記

秋祭の御準備等で御多忙の事と御推察申し上げます。  
 今回第二号の会報をお届け出来ますのも県下神社関係各位の御協力に依るものと厚く御礼申し上げます。  
 今年度は教化、事業、広報、調査の四委員会を設け、更に密なる行動をと会員一同張切っております。諸先輩方の暖かい御指導と御鞭撻をお願い申し上げます。  
 そろそろ、正月号の準備にかかりますので会員諸兄の寄稿をお願い申し上げます。  
 我もと思われる方は三島喜徳(大山祇神社)迄御連絡下さい。  
 会員の移動・人事等も折々に、広報の係まで御一報下さいませれば幸甚です。